

## H28 年秋期の堅果類等の豊凶とツキノワグマの出没予測 (H28 年 10 月 7 日)

中山間地域研究センター

### 1. 目撃、被害、捕獲の状況

今年の 4～9 月のクマの目撃件数 (被害、痕跡、捕獲件数を含む) の合計は過去 5 年間で最多であった。とくに、6～7 月の件数が多かったが、9 月には減少した (図 1)。H24～26 年の秋期の堅果類等の豊凶は、並～豊作と良かったことから、翌春の子の出産状況は良好であったと考えられる。そのため、今春には 1～3 歳になった若齢個体が多かったことから、警戒心の少ない若い個体の出没が多かったと推測される。また、捕獲数も 4～9 月まで継続して多く 95 頭に達した (H27 年の同時期の捕獲は 55 頭)。捕獲の 83% は錯誤捕獲であったが、7～8 月はニホンミツバチの蜜罠や民家の壁に営巣したミツバチへの被害、9 月はブドウ園、カキ園やコンポストへの被害が発生して 1～7 頭を有害捕獲した (図 2)。ただし、大量出没年 (2010 年など) にみられるクマが農作物等に執着して、被害が継続して発生する状況は浜田市の一部のカキ園を除いて認めなかった。

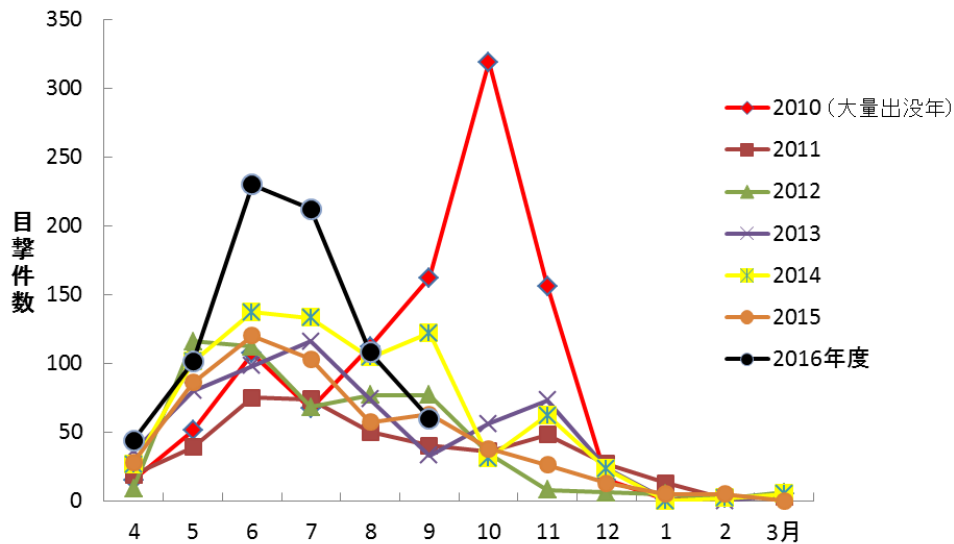


図 1 目撃件数の推移

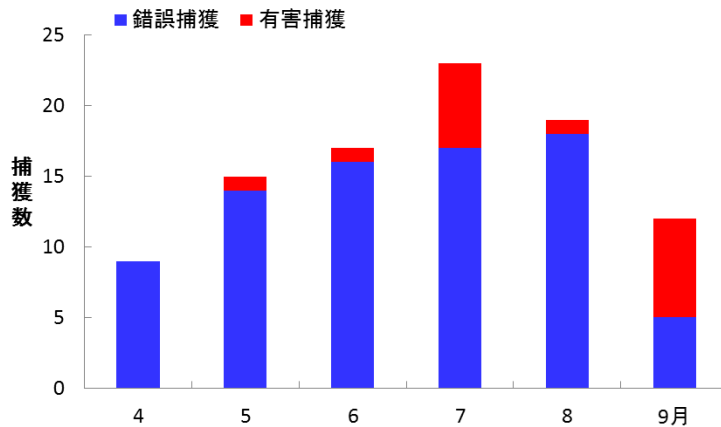


図 2 2016 年 4～9 月の捕獲区分別の捕獲数

## 2. 堅果類等の豊凶の状況（目視による暫定値）

クマノミズキ：並作

シバグリ：豊作

コナラ：並作

ミズナラ（西部地域）：並作

ミズナラ（東部地域）：凶作

ブナ（西部地域）：凶作

ブナ（東部地域）：凶作

アラカシ（西部地域）：並作

## 3. 今後の出沒予測

9月にはクマノミズキなどが多く実ったために出沒が減少したと考えられる。10月以降もシバグリ、コナラなどが実ると予想されるので、人里への出沒や被害発生は増加しないと予測する。なお、ミズナラとブナは凶作であるが、本県の分布域は高標高の地域に限られるので大きな影響はないと考えられる。

広島県と山口県の担当者への聞き取りでも、出沒状況は本県と同様に8月までは多かったが、9月は少なかった。

今後、4月以降の捕獲個体の年齢（放獣個体も含む）、胃内容物、栄養状態などを調べて、6～9月の出沒との関連を分析する予定である。

西中国地域全体での堅果類等の豊凶の評価は、現在山口県農林総合センターにおいて3県の調査データを集計して分析中である。